

講義名	対)スポーツ科学演習B (バドミントン/テニス)		
担当教員	与那覇 秀勲		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	演習
履修開始年次	2年生	単位数	2
備考			

主題と概要

超高齢社会を迎える中で、生涯にわたる運動・スポーツの実践の重要性が高まっている。本授業では、バドミントン及びテニスの技術・戦術の向上や仲間との連携やコミュニケーションの促進により、運動・スポーツの本質的な要素である「楽しみ」を追究し、ライフステージに応じたスポーツ実践の礎とする。

到達目標

- 「健康」獲得の方法を修得できるようになる。
- 様々なルール、応用技術・基本戦術を理解し、説明できるようになる。
- 応用技術・基本戦術を修得し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようにする。

*オンデマンドでの受講では、以上の到達目標を達成することが難しい。このため、対面授業とする。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に講義が休止となった学生については、その期間のみ課題学修などによって対応する。

提出課題

健康・スポーツに関するレポート課題を講す。具体的な内容は授業中に指示する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

レポート課題は評価のうえ返却を行う。

評価の基準

授業実施時間数の4回以上欠席した者は単位を認定しない。
 授業中の評価：受講態度・実技点など.....80%
 中間期の評価：レポート課題.....10%
 期末期の評価：レポート提出.....10%

履修にあたっての注意・助言他

対面授業をともに授業計画を進行するため、実技を伴う活動が求められる。実技を通して、各自が課題をみつけ向上していくことを基本とする。よって、この授業において求められることは、「健康」の獲得と実技を通して「スポーツの礎」とすることである。それらを実践するため体調を整え、向上していく姿勢が求められる。

- 授業には、運動に適した服装及びシューズを着用すること。
- テニスコートでは、テニスシューズもしくは靴底が平らな運動靴のみ着用を認める。
- 天候によって授業計画を変更する可能性がある。
- 授業計画は学習内容をより充実させるために、受講者の技術歴、習得度に応じて変更することがある。
- 授業前・後には必ずマスクを着用することとし、授業中については教員の指示に従うこと。

教科書					

プリント資料及び参考文献

資料：適宜プリントを配布します。
 参考文献
 (財)日本バドミントン協会「バドミントン教本基本編」
 (公財)日本テニス協会「テニス指導教本Vol.」

授業計画

- ガイダンス
- バドミントン (コートの準備方法、ラリー)
- バドミントン (ラリー、サービス、レシーブ)
- バドミントン (バックリターン、カット、ドロップ)
- バドミントン (シングルス戦術理解)
- バドミントン (シングルスリーグ戦)
- バドミントン (シングルスリーグ戦)
- 生涯スポーツの実践に向けて
- テニス (ショートラリー、ストレートラリー)
- テニス (ボレー、スマッシュ)
- テニス (サーブ、ミニゲーム)
- テニス (シングルス戦術理解)
- テニス (個人練習を通じてストロングポイント、ウィークポイントの強化、シングルスリーグ戦)
- テニス (シングルスリーグ戦)
- まとめ

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：自らのシラバスを参照し、予め授業内容について書籍やインターネットを用い調べ。(自回2時間)
 復習：自らの授業内容を踏まえたうえで、自主練習を通して技術の向上や戦術の理解を深める。(自回1.5時間)
 レポート作成(8時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目を受講し、目標を達成することで、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の5項目および、健康スポーツ科学のカリキュラムポリシーへ貢献することができる。集団や個人でスポーツ実践へ取り組みの中で、明るく元気で、どのような場所でも物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜く力、つまり「本アカ」のびのび「こたけず」の精神を育むことができる。また、問題点やその要因を発見し、自らが確り取り組めるようになる。そして、他者に働きかけ、協力して課題へ取り組みることにより、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。

生涯にわたってスポーツに関わったり、健康の維持・増進に努めたりすることができるような知識を得て、理解することができる。以上は、全学部・学科の所属学生へ共通している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考